

## キリンホールディングス AI 役員「CoreMate」導入の深堀分析 ― 日本企業デジ

### タル経営革命の先駆け

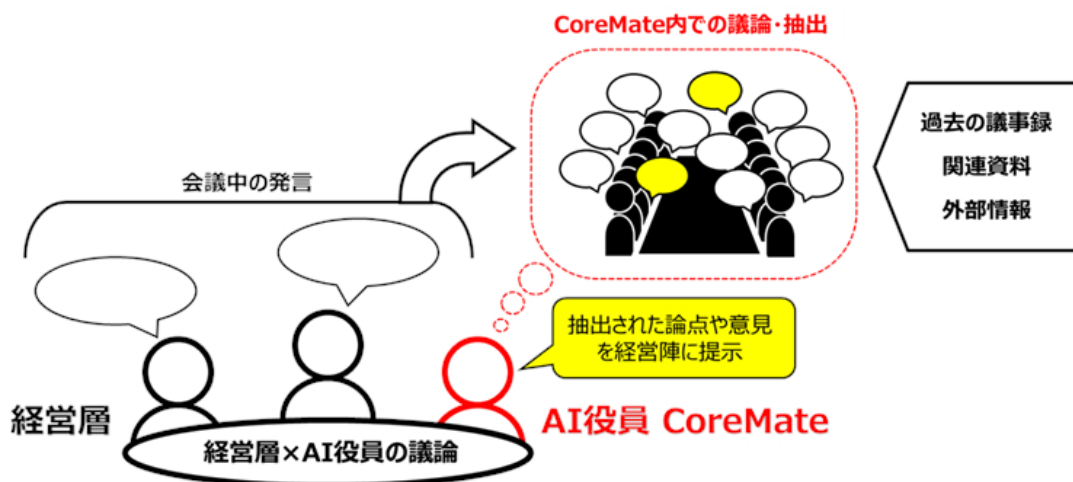


Genspark

Aug 04, 2025

### 概要

2025 年 8 月 4 日、キリンホールディングス株式会社（代表取締役社長 COO：南方健志）が発表した「AI 役員 CoreMate」の経営戦略会議への本格導入は、日本企業における AI 活用経営の新しいマイルストーンとして注目を集めています。Kirin Holdings<sup>1</sup> この画期的な取り組みは、単なる業務効率化ツールを超え、経営層の意思決定プロセス自体を革新する「第 4 次産業革命」の具現化と位置づけられます。



## KIRIN Digital Vision2035 (KDV2035) ― デジタル変革の全体戦略

### 戦略的ビジョンと二本柱アプローチ

キリンの今回の AI 役員導入は、同社が推進する「KIRIN Digital Vision2035」の中核戦略として位置づけられています。Kirin Holdings<sup>2</sup>KDV2035 は、以下の二つの柱を軸とした包括的なデジタル変革戦略です：

1. 生産性向上：「人がやらなくてよい仕事をゼロにする」

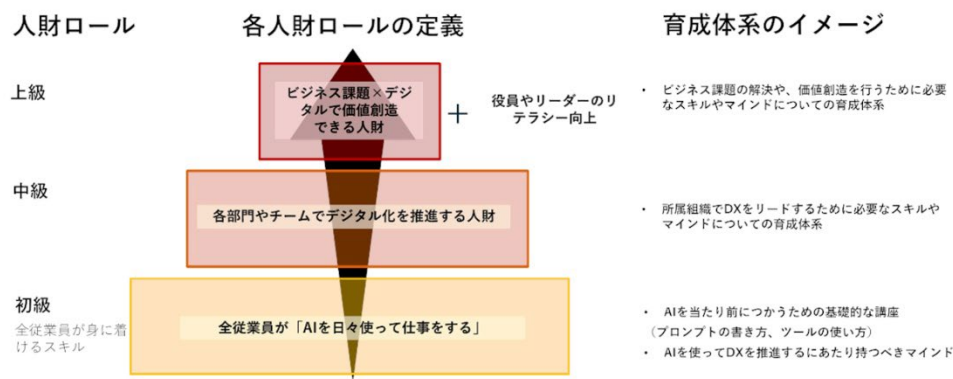
## 2. 価値創造：「人と共に価値を生み出す仕事を加速させる」

この戦略は、食・ヘルスサイエンス・医療の各領域において、価値創造の「質」「量」「スピード」を飛躍的に向上させ、世界の CSV（Creating Shared Value：共通価値の創造）先進企業としてのポジション確立を目指しています。Kirin Holdings<sup>3</sup>

### デジタル基盤強化の取り組み

KDV2035 を支えるデジタル基盤強化として、キリンは以下の施策を展開しています：

- **DX 道場の拡充**：2025 年春から生成 AI ツール「BuddyAI」を活用した研修プログラムを開始
- **全従業員向けデジタルスキル向上**：リーダー層の研修受講必須化と e-learning 体制の充実
- **生成 AI 関連講座の新設**：「生成 AI 導入研修」「リーダー向け生成 AI 利用マインドセット研修」などを複数展開



### AI 役員 CoreMate の技術仕様と革新性

#### 技術的基盤とアーキテクチャ

CoreMate は、過去 10 年分にわたるキリンホールディングスの取締役会およびグループ経営戦略会議の議事録データを基盤として構築されています。Yahoo!ニュース<sup>4</sup> この膨大なデータに加え、外部の最新専門情報を継続的に取り込み、12 名の独立した AI 人格を形成している点が特徴的です。

技術的な特徴として以下の点が挙げられます：

- **マルチペルソナアーキテクチャ**：12 名の異なる専門性を持つ AI 人格
- **ハイブリッド AI 基盤**：自社開発ツールに加え、Microsoft、Google などの外部 AI モデルを統合活用
- **リアルタイム情報更新**：外部環境の変化に対応した継続的な知識アップデート
- **議論シミュレーション機能**：AI 人格間での自律的な議論・論点抽出システム

## 運用プロセスと実装方法

CoreMate の実際の運用は、以下の 3 段階プロセスで実施されます：

1. **事前議論段階**：会議起案者が CoreMate と付議内容について事前討論を実施
2. **会議同席段階**：12 名の AI 人格が相互に議論し、主要論点を抽出
3. **提案段階**：抽出された数個の重要論点を経営戦略会議で提示

年間 30 回以上のグループ経営戦略会議での活用が予定されており、経営層の意思決定品質とスピードの向上が期待されています。Kirin Holdings<sup>1</sup>

## 業界動向と競争環境における位置づけ

### 日本企業の AI 経営導入における先駆的地位

日本企業の経営層における AI 活用は、欧米に比べて大幅に遅れているのが現状です。PwC の調査によると、日本の生成 AI 利用率は 55.2%に留まる一方、中国、米国、ドイツでは 90%を超える活用率を記録しています。インディ・パ<sup>5</sup>

このような環境において、キリンの AI 役員導入は以下の意義を持ちます：

- **パイオニア効果**：日本企業初の本格的な AI 役員システム
- **ベストプラクティス創出**：他社が参考にできる具体的な導入モデルの提示
- **産業界への波及効果**：食品業界を超えた幅広い業界への影響

### 食品業界におけるデジタル変革トレンド

食品業界全体の DX 投資は堅調な成長を続けており、AI による食品加工市場は 2024 年の 119 億ドルから 2033 年には 223 億ドルに拡大し、年平均成長率（CAGR）8.3%を記録すると予測されています。Scoop Market<sup>6</sup>

キリンの取り組みは、この市場トレンドの中で以下の特徴を示しています：

- **経営レベルでの導入**：単なる製造工程の自動化を超えた戦略的活用
- **人材育成との連携**：DX 道場などを通じた全社的なデジタルリテラシー向上
- **イノベーション創出**：外部パートナーシップ（OpenAI、Microsoft、Google など）の活用

## 南方健志社長のリーダーシップと経営哲学

### 現場主義に根ざした変革リーダーシップ

南方健志社長（代表取締役社長 COO）は、1984 年のキリンビール入社以来、一貫して現場重視の経営スタイルを貫いています。日本経済新聞 <sup>7</sup> 同氏の経営哲学である「三現主義」（現場・現物・現実）は、今回の AI 導入においても、単なる技術導入ではなく現場の実態

に即した実用性を重視するアプローチに反映されています。

南方社長の経営方針の特徴：

- **多様性推進**：2024 年に女性経営職比率 15.9%を達成（目標 15%を上回る）PR TIMES<sup>8</sup>
- **環境経営の徹底**：CDP「サプライヤーエンゲージメント評価」で7年連続最高評価獲得
- **現実的戦略**：人口減による酒類市場縮小を踏まえた柔軟な事業展開

## 「シゴデキから人気者へ」— AI 時代の人材観

LINE ヤフーの川邊健太郎会長は、麒麟の AI 役員導入について「人間の今後重要な能力が『シゴデキから人気者へ』になっていく分かりやすい初期的状況」とコメントしています。Yahoo!ニュース<sup>4</sup>これは、AI が定型的な分析や判断を担う時代において、人間には共感力やコミュニケーション能力がより重要になることを示唆しています。

## 期待される効果と潜在的リスク

### 定量的・定性的な効果予測

麒麟が CoreMate 導入により期待する効果は、以下の領域に及びます：

生産性向上の側面：

- 経営会議準備時間の短縮（資料作成精度向上）
- 与件整理プロセスの効率化
- 経営層の戦略的思考時間の創出

価値創造の側面：

- 議論の質的向上（多様な視点の自動取り込み）
- 意思決定スピードの向上
- 外部環境変化への迅速な対応力向上
- イノベーション創出の加速

### 技術的・組織的リスクの認識

学術研究によると、AI を経営意思決定に活用する際の主要なリスクとして以下が指摘されています：

1. **ブラックボックス問題**：AI の判断根拠の不透明性
2. **バイアスの固定化**：過去データに基づく判断の偏り
3. **責任の所在**：AI による提案に基づく意思決定の責任問題
4. **人間の創造性阻害**：AI 依存による思考の画一化リスク

Springer<sup>9</sup>麒麟は、これらのリスクに対して12名の多様なAI人格による意見の多様性確保や、あくまで「右腕」としての支援ツールという位置づけでリスク軽減を図っています。

## 市場・投資家の反応と株価への影響

### 市場からの評価と注目度

AI 役員導入の発表は、SNS を中心に大きな反響を呼んでいます。主な反応として以下が挙げられます：

#### 肯定的評価：

- 「想像以上に本格的だった」
- 「人間の役員は性別も年齢も偏っているが、AI はそれがない」
- 「12 人分の人格というのは AI 円卓会議の仕組みを取り入れている」

**投資家の視点：** 現在の麒麟 HD の株価は、みんかぶの AI 株価診断において「過去比較で割安」と判断されており、今回の AI 導入が中長期的な企業価値向上への期待材料として評価される可能性があります。みんかぶ [10](#)

#### 財務パフォーマンスとの相関

2024 年 12 月期の麒麟 HD の業績は、売上高 2 兆 3384 億円、純利益 582 億円（前期比 48%減）となりました。日本経済新聞 [11](#) 減益の主因は不採算事業の譲渡損などですが、AI 導入による効率化効果が今後の収益改善に寄与することが期待されています。

## 国際比較と学術的考察

### 海外企業との比較分析

グローバルな視点で見ると、欧米企業では既に AI を活用した経営支援システムの導入が進んでいます。しかし、麒麟のような「AI 役員」として明確に位置づけた事例は珍しく、国際的にも注目を集める可能性があります。

#### 海外事例との差別化要因：

- 明確な「役員」としてのポジショニング
- 12 名の多様な AI 人格による集合知システム
- 過去 10 年の実際の経営データに基づく学習
- 経営戦略会議への直接的な関与

#### 学術的な評価と今後の研究課題

企業ガバナンスにおける AI 活用に関する学術研究では、以下の観点が重要視されています：

1. **ガバナンス効果性：**意思決定の質と透明性の向上
2. **リスク管理：**AI 判断の妥当性検証メカニズム
3. **ステークホルダーへの影響：**株主、従業員、顧客への効果
4. **規制対応：**AI 活用に関する法的・倫理的課題への対処

European Business Organization Law Review [12](#)

## 今後の展開と将来展望

### 段階的展開計画

キリンは以下の段階的な展開を計画しています：

**フェーズ 1**（2025 年 7 月～）：

- キリンホールディングスのグループ経営戦略会議での本格運用
- 年間 30 回以上の会議での活用実績蓄積

**フェーズ 2**（将来計画）：

- 取締役会への展開
- グループ各事業会社の経営戦略会議への横展開
- 会話型 CoreMate 機能の開発
- 議論内容のリアルタイム可視化機能の追加

### 産業界への波及効果

キリンの取り組みは、日本企業のデジタル経営革新において重要なベンチマークとなることが予想されます。特に以下の領域での影響が期待されます：

- **同業他社への波及**：食品・飲料業界における類似システムの導入促進
- **異業種への展開**：製造業、金融業、小売業などへの応用
- **スタートアップとの連携**：AI 経営支援サービス市場の拡大
- **人材市場の変化**：AI 活用スキルを持つ経営人材の需要増加

### 結論と提言

キリンホールディングスの AI 役員 CoreMate 導入は、日本企業におけるデジタル経営革新の画期的な事例として位置づけられます。この取り組みの真の価値は、単なる効率化ツールを超えて、人間と AI の協働による新しい経営スタイルの創造にあります。

**成功要因：**

1. 明確なビジョン（KDV2035）に基づく戦略的導入
2. 南方社長の現場主義的リーダーシップ
3. 段階的かつ実践的な導入アプローチ
4. 全社的なデジタルスキル向上との連携

**注視すべき課題：**

1. AI 判断の透明性と説明可能性の確保
2. 人間の創造性・直感力の維持・向上
3. 継続的な学習・改善メカニズムの構築
4. ステークホルダーへの適切な情報開示

今後、麒麟の実績が日本企業の AI 経営導入における重要な指標となり、第 4 次産業革命時代の新しい企業経営モデルとして国内外から注目され続けることが予想されます。この先駆的な取り組みが、日本企業全体のデジタル競争力向上に寄与することを期待してやみません。

もっと詳しく

1

[www.kirinholdings.com](http://www.kirinholdings.com)

2

[www.kirinholdings.com](http://www.kirinholdings.com)

3

[www.kirinholdings.com](http://www.kirinholdings.com)

4

[news.yahoo.co.jp](http://news.yahoo.co.jp)

5

[indepa.net](http://indepa.net)

6

[scoop.market.us](http://scoop.market.us)

7

[www.nikkei.com](http://www.nikkei.com)

8

[prtimes.jp](http://prtimes.jp)

9

[link.springer.com](http://link.springer.com)

10

[minkabu.jp](http://minkabu.jp)

11

[www.nikkei.com](http://www.nikkei.com)

12

[link.springer.com](http://link.springer.com)